

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター（第30回）

新教科書による新しい教育実践、始まる！

2017年6月1日（木）より全国の学校で新年度の授業が始まりました。そして、今年度からは小学1年生において CREATE と教育省が共同で開発した新しい教科書が初めて使われます。新学年開始当初、教科書が児童に十分に行き渡らなかつたり、製本が不完全であったため中身がすぐにバラバラになってしまう等の問題が見られましたが¹、全体的には新教科書を使った新しい教育実践は学校現場からはたいへん好評を得ているようです。全国各地の学校教員らは新しい教科書を使った自らの授業実践をフェイスブックに掲載したり、教員らが自主的に組織した教科別の学びの会などがインターネット上に独自の授業案やアイデアをアップロードして、全国の教員仲間らと共有しているという情報もあちこちから入ってきています。

ヤンゴンのある学校長からは、「児童らは新しい教科書を非常に喜んでいる。我々は過去にこういった教科書を使うことはなかったが、教師にとっても児童にとっても非常に良い教科書だと思っている。以前の教科書では、児童が自発的に授業に参加するということがほとんどなかったが、今、子どもたちは非常に積極的だ」という意見が出されています。また、同校の小学1年生の担任教諭からの「新しい教科書は非常にわかりやすく、子どもたちを引きつける魅力をもっていると思う。また、解説と演習が上手く組み合わせられているという印象をもっている。父兄も新しいカリキュラムや教科書に非常に興味をもっている」というコメントがプロジェクトに届いています。



JICA ミャンマー事務所の新所長、CREATE を視察

2017年6月15日（木）、JICA ミャンマー事務所の所長に新しく就任された唐澤雅幸氏が CREATE プロジェクト事務所に視察に来られました。この視察では、まず、専門家との話し合いの時間を45分ほど設定し、本プロジェクトの全体概要及びこれまでの進捗状況について情報共有を行いました。その後、さらに45分程度をとって、CDTの教科書開発の作業現場を実際に見て頂き、その間、CDTに対して、教科書開発における難しさや苦勞などについて質問されました。

全体としては、1時間半程度の視察でしたが、



¹ 6月30日現在においても、多くの学校で2~3教科の教科書が児童に配られていなかったり、教員用指導書が全く配布されていない等の問題が続いています。特に、教員養成学校付属校には、G1の教科書及び指導書とも全く配布されていない状況です。

CREATE のこれまでの3年間の活動内容はもちろん、新しい教育実践に目指した教科書と教員用指導書の開発という、ミャンマーの教育実践を質的に改善していく基礎部分の構築を、専門家やカウンターパートが一緒になって取り組んでいることを十分にご理解いただけたようです。

国家カリキュラム委員会との第2回定例会議、開催

6月23日（金）、国家教育政策委員会（National Education Policy Commission: NEPC）にて、国家カリキュラム委員会（National Curriculum Committee: NCC）との第2回目の定例会議をもちました。この会議は、以前から CREATE が NCC に対して提案してきた「月に一回程度、進捗状況報告やお互いの教育やカリキュラムについて意見を交換していきましょう」というものが具体化したもので、第1回会議は5月中旬に行われ、今回が2回目でした。

今回の会議の議題は、①CREATE が開発したアセスメント・ガイドライン及び試験問題集の内容説明、②日本のアセスメントについての現状、③CREATE のカリキュラム開発における基本哲学、という三点でしたが、どの議題もミャンマーの新しい教育にとっては重要なものでしたので、CREATE の専門家と NCC の委員の方々との間でかなり積極的な意見交換が行われました。



アセスメントの基本を学ぶワークショップを開催

6月26日（月）、CREATE の CDT メンバー及び教師教育（TE）メンバーを対象にしたアセスメント・ワークショップを開催しました。このワークショップの趣旨は、これまで小学1年生の教科書及び教員指導書の開発において、各単元末に児童の学習理解度、学習達成度を測るための設問や問いを設けていますが、今一つ、それらの問いの作成において、CDT らが困難を抱えているということでしたので、小学2年生の教科書や教員用指導書の開発が進められているこの時期を狙って、再度、CDT や TE メンバーのアセスメントについての理解を深めてもらうということで実施しました。

講師は、CREATE 理科担当の専門家のタン先生、アセスメント担当の村瀬先生にお願いしました。このワークショップではアセスメントの基本を参加者で再度レビューしようということで、「アセスメント」の意味、「評価」との違い、アセスメントの目的、種類、方法などの基本事項を扱いました。参加者は皆、熱心に、かつ楽しく学んでおり、アセスメントについての基本的な理解も深まったようです。



以上

文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）
編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）